

留学生のキャリア意識調査報告

—日本語学習者のキャリア支援に向けて—

寅丸 真澄・中山 由佳・齊藤 真美

要旨

本研究の目的は、本学留学生のキャリア意識の実態を明らかにし、日本語教育の観点から、そのキャリア支援のあり方を検討することである。本研究では、本学日本語教育研究センターにおいて開講されているキャリア形成に関わる日本語科目履修者を対象に、進路、特に自身のキャリアに対する意識や就職活動の準備状況、支援の要望などを明らかにするため、アンケート調査を実施した。その結果、日本語レベルが高くなるほど、キャリア意識が高まっていること、および就職に向けた具体的な活動を行っていることが明らかになった。一方、中級レベルでは、日本企業または在外日本企業に就職したいという希望はあるものの、日本語能力や情報収集力の不足から、十分な準備がなされていないことが示唆された。今後は、日本語学習者の実態に留意し、関係箇所と連携しつつ、日本語レベルや学習者の目的に応じた対応策を検討すべきであると考えられる。

キーワード：留学生、キャリア意識、キャリア支援、関係各所との連携、ネットワーク形成支援

1. はじめに

本研究の目的は、本学留学生のキャリア意識の実態を明らかにし、日本語教育の観点から、そのキャリア支援のあり方を検討することである。

少子高齢化による学生数の減少と大学のグローバル化を背景にして、国内大学の留学生の受け入れ数は年々増加している。平成29年度の高等教育機関留学生数は188,384人に達し、前年度比増加率は28年度の12.5%に続き、10.1%という高水準を保持している（日本学生支援機構2017）。このような状況下で、各大学では、英語プログラムや日本語短期プログラムなど多様なプログラムが新設され、留学生が多様化、増加している。そして、そのような留学生の増加に伴い、日本で働くことを希望している者や、可能であれば日本で働きたいと考えている者も増加傾向にあると考えられる。

一方、優秀な留学生の労働力に期待し、留学生の国内での就職率を現在の3割から将来的に5割に伸ばすという方向性も確認されている（内閣府「日本再興戦略改訂2016」）。そのため、大学・大学院を卒業・修了した留学生や、日本語プログラムを修了した留学生が国内企業や在外日系企業に就職できるようなキャリア支援を行うことが喫緊の課題になっている。そして実際、これまで日本人学生を中心に行われてきた大学のキャリア支援の対象は留学生まで広がり、日本人学生との公平性も確保されつつあると言える。

しかし、留学生の特性を踏まえたキャリア支援が各教育機関において十分に行われているのかという点については疑問が残る。日本とは異なる社会文化の中で生まれ育った留学

生にとって、日本の就職活動のシステムを理解し、そのシステムの中で日本語を駆使しながら適性に合った就職先を見つけるということは極めて困難であり、そのような留学生に対して十全な理解と行動を短期間で促すこともまた容易ではないと考えられるからである。適切な支援を行うためには、まず、留学生の意識の実態や、その環境を知る必要がある。留学生が日本語学習と自分のキャリアをどのように結びつけ、何を目指して、どのような就職活動を行っているのか、どのような支援を利用し、必要としているのかという実態を把握することが重要であろう。

そこで、本調査では、学習者のキャリア意識と就職活動の実態を知るため、進路、特に自身のキャリアに対する意識や就職活動の準備状況、支援の要望などを明らかにするアンケート調査を実施し、その結果を報告する。

2. 調査対象・調査方法

調査対象は、早稲田大学日本語教育研究センターが提供するキャリア形成に関わる日本語科目（「ビジネス日本語」関連科目など）の初級、中級、上級クラス履修者、合計155名である。アンケート調査の質問項目は、パイロット調査で用いた質問項目を基に、現在の日本語学習をどのように将来の仕事に活かそうとしているのか、また、日本語学習に加え、どのような就職準備をしているのかを明らかにする目的から、筆者らが「日本語学習」「将来の進路」「就職活動」の3点に関わる16項目を選定した。

本稿では、まず、3.1と3.2において、これらの質問項目のうち、留学生のキャリア意識や具体的な活動の概要を知ることのできる以下の(1)から(8)の8項目の調査結果を取り上げる。なお、このうち、質問(1)は5つの選択肢(①～⑤)から選択する複数回答可能な質問であるが、質問(2)から質問(8)は、「はい」「いいえ」で回答できる第1の質問と、その回答の別によって、具体的な内容について記述する第2の質問(①②の数字で記載された項目)からなっている。次に、3.3において、「大学にどのような支援を期待したいか」という質問に対する学習者の回答を整理する。

《質問項目》

- (1) 日本語学習の目的は何か。
 - ①日本で仕事がしたい。②できれば日本で仕事がしたい。
 - ③自国で日本に関係する仕事がしたい。④趣味や教養として続けたい。⑤その他
- (2) ①本科目履修の目的は就職か。
 - ②履修目的が就職でない場合、目的は何か。
- (3) ①クラブやサークルに入ったことがあるか（現在所属している場合を含む）。
 - ②入ったことがある場合、どのようなクラブやサークルに入ったことがあるか。
- (4) ①アルバイトやインターシップの経験はあるか。
 - ②経験がある場合、どのようなことをしたか。
- (5) ①将来の進路（就職・進学）のための勉強や活動の計画はあるか。
 - ②計画がある場合、どのような勉強や活動をする予定か。
- (6) ①就職に関する情報収集など具体的な就職活動をしているか。

- ②就職活動をしているのであれば、どのような活動をしているか。
- (7) ①学内の就職関連施設を利用したことがあるか。
②利用したのであれば、どのようなサポートやサービスを受けたか。
- (8) ①進路選択のために大学の支援が必要だと思うか。
②必要なのであれば、どのような支援がほしいか。

3. 調査結果

第1の質問に対する回答のレベル別調査結果は、表1の通りであった。本稿では、これら表1の結果と、質問(2)から質問(7)の第2の質問に対する回答の記述をもとに、3-1において質問項目別特徴、3-2において、日本語レベル別傾向について指摘する。さらに、3-3において、質問(8)②の回答について具体的に検討する。

表1 質問(1)および質問(2)～(8)の第1の質問に対する回答結果

	質問(1) (複数回答)						質問(2)			質問(3)			質問(4)			
	人数	回答数	①	②	③	④	⑤	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
初級	47	90	9	23	22	31	5	30	17	0	16	31	0	13	34	0
	100.0%	100.0%	10.0%	25.6%	24.4%	34.4%	5.6%	63.8%	36.2%	0.0%	34.0%	66.0%	0.0%	27.7%	72.3%	0.0%
中級	65	81	20	23	22	14	2	53	12	0	33	32	0	35	30	0
	100.0%	100.0%	30.8%	35.4%	33.8%	21.5%	3.1%	81.5%	18.5%	0.0%	50.8%	49.2%	0.0%	53.8%	46.2%	0.0%
上級	43	50	17	12	15	5	1	39	4	0	28	15	0	33	10	0
	100.0%	100.0%	39.5%	27.9%	34.9%	11.6%	2.3%	90.7%	9.3%	0.0%	65.1%	34.9%	0.0%	76.7%	23.3%	0.0%
合計	155	221	46	58	59	50	8	122	33	0	77	78	0	81	74	0
	100.0%	100.0%	29.7%	37.4%	38.1%	32.3%	5.2%	78.7%	21.3%	0.0%	49.7%	50.3%	0.0%	52.3%	47.7%	0.0%

	質問(5)			質問(6)			質問(7)			質問(8)			
	人数	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
初級	47	14	33	0	14	33	0	10	36	1	21	25	1
	100.0%	29.8%	70.2%	0.0%	29.8%	70.2%	0.0%	21.3%	76.6%	2.1%	44.7%	53.2%	2.1%
中級	65	27	38	0	26	39	0	13	52	0	57	8	0
	100.0%	41.5%	58.5%	0.0%	40.0%	60.0%	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%	87.7%	12.3%	0.0%
上級	43	21	22	0	32	11	0	16	27	0	28	15	0
	100.0%	48.8%	51.2%	0.0%	74.4%	25.6%	0.0%	37.2%	62.8%	0.0%	65.1%	34.9%	0.0%
合計	155	62	93	0	72	83	0	39	115	1	106	48	1
	100.0%	40.0%	60.0%	0.0%	46.5%	53.5%	0.0%	25.2%	74.2%	0.6%	68.4%	31.0%	0.6%

3-1. 質問項目別特徴

(1) 日本語学習の目的は何か

初級では、「④趣味や教養として続けたい」(34.4%)が最も多く、次いで「②できれば日本で仕事がしたい」(25.6%)と「③自国で日本に関係する仕事がしたい」(24.4%)がほぼ同率で続き、最後に「日本で仕事がしたい」(10.0%)となっている。また、複数回答率が他のレベルと比較して多いことから(初級1.9/中級1.3/上級1.2)、初級では、様々な可能性の中で方向性を絞りかねている様子がうかがわれる。それに対し、中級では、②(35.4%)、③(33.8%)、①(30.8%)、④(21.5%)の順となっている。また、上級

では、① (39.5%)、③ (34.9%)、② (27.9%)、④ (11.6%) の順であり、特に④が低い。①と②を合わせた数値が、初級では 35.6% なのに対して、中級と上級では、それぞれ 66.2% と 67.4% と 6 割を超えていることから、中上級に進むに従い、日本語をキャリアに活かして、日本で仕事をしようという志向性が強まっていることがわかる。

(2) 本科目履修の目的は就職か

初級では、ビジネス日本語関連科目の履修の目的が就職であると答えている学習者が 63.8% であるのに対して、中級では 81.5%、上級では 90.7% となっており、レベルが上がるとつれて就職という目的意識が強くなっていると言える。就職以外の履修目的としては、初級では「標準的な初級日本語科目では十分に学習できない語彙や文法を学びたい」「アルバイトをしたい」「日本語会話に慣れたい」「年上の人と話すための敬語を学びたい」「単位を取りたい」などの目的が挙げられていた。一方、中級では「アルバイトでのコミュニケーション能力を上げたい」「インターンシップに参加したい」という就職に関わる実利的な目的が観察された。上級では就職以外を挙げた学習者はきわめて少ないが、「多様な日本語が話せるようになる」のほか、「ただの趣味」という回答があった。

(3) クラブやサークルに入ったことがあるか (現在所属している場合を含む)

初級では入ったことがある、または現在入っている学習者が 34.0% なのに対して、中級では 50.8%、上級では 65.1% となっており、上級になるほどクラブやサークルへの参加率が高まっていることがわかる。具体的に所属したクラブやサークルとしては、初級や中級では、国際交流サークルなど日本語学習や日本人と接触する機会がつけられるクラブやサークルが多いのに対し、上級ではスポーツやダンスなど趣味や楽しみのためのクラブやサークルへの参加が観察される。日本語能力が高まるにつれて、クラブやサークルに入る目的が日本語学習から自身の趣味や楽しみに移行している様子が見られる。

(4) アルバイトやインターンシップの経験はあるか

初級では 27.7%、中級では 53.8%、上級では 76.7% の学習者がアルバイトやインターンシップの経験があると述べており、(3) 同様、それらの機会を得るには、日本語能力が必要であることが推測できる。就職に対する意識やモチベーションが高く、かつ、日本語能力の高い学習者がアルバイトやインターンシップを経験していると言える。また、初級学習者では、大使館のアルバイトや自国企業など英語、または母国語で仕事ができるアルバイト先が挙げられているのに対し、上級学習者では、日本語で仕事ができるアルバイトが選択されており、言語的な拘束がない。どのレベルにおいても接客業が多いが、日本語能力に応じてアルバイト先が変化していると考えられる。

(5) 将来の進路 (就職・進学) のための勉強や活動の計画はあるか

初級では 29.8%、中級では 41.5%、上級では 48.8% の学習者が勉強や活動の計画があると述べており、特に、中級と上級の割合差は他の質問より小さい。但し、初級や中級では、日本語能力試験 (JLPT) やビジネス日本語能力テスト (BJT) などの資格試験の準備を計画している学習者が多いのに対し、上級では、資格試験などの実利的な日本語学習のみならず、専門の学習や活動をするなど、日本語を越えた学習や活動によって自身の進路に必要な能力を獲得しようとしている様子が見える。

(6) 就職に関する情報収集など具体的な就職活動をしているか

初級では 29.8%、中級では 40.0%、上級では 74.4% となっており、上級学習者の多くが具体的な就職活動に取り組んでいることがうかがえる。これらの比率は、「(4) アルバイトやインターンシップの経験があるか」と似たような数値を示しており、日本での就職を希望する意志が強く日本語レベルが高い学習者ほど、アルバイトやインターンシップ、その他の準備をしていることがわかる。日本の企業や企業風土を知るため「インターンシップを計画している」学習者や、就職試験に備えて「キャリアセンターで面談を受けようと思う」「キャリアセンターのセミナーに出ようと思う」といった学習者も見られる。

(7) 学内の就職関連施設を利用したことがあるか

初級では 76.6%、中級では 80.0%、上級でも 62.8% の学習者が学内施設を利用していないことが明らかになった。質問 (1) から (6) までの質問では、日本語能力レベル別の差が顕著に出ていたが、この質問は最もレベル差が少なかった。つまり、どのレベルの学習者も、キャリアセンターなどの就職関連施設を十分に利用していないということである。その理由としては、初級では、もともと日本での就職に対する強い志向性がない、あるいは「できれば日本で就職したい」という学習者でも、日本語能力が不足しているために情報が拾えないということが挙げられる。中級と上級では、まったく利用したことがない学習者と、キャリア面談を繰り返し受けている学習者、またはキャリアセンターなどが開催するセミナーに積極的に参加している学習者などの二極分化の傾向が見られる。

(8) 進路選択のために大学の支援が必要だと思うか

初級では 44.7%、中級では 87.7%、上級では 65.1% の学習者が進路選択のための支援が必要であると答えており、質問 (7) 同様、この質問も、日本語レベルの別なく高い数値を示している。このように、支援の必要性を訴えながらも施設を利用していないことは、施設や支援についての周知が十分になされていないことを表していると言える。その理由としては、留学生向けの情報が少ない、または、情報があっても、日本語レベルが高くないため情報が収集できないといった理由が考えられる。なお、この質問に限り、「はい」と答えた中級学習の割合が最も高くなっているが、これは、日本や日本企業への就職意欲が高いにもかかわらず、中級学習者が日本語能力不足や日本語による情報過多などの理由により、十分な支援が受けられていないと感じていることを示している。

3-2. 日本語レベル別傾向

(1) 初級学習者

初級学習者の傾向としては、「漠然としたキャリア意識」「キャリアに関する情報不足」「就職に向けた実質的活動への参加割合の低さ」などが挙げられる。初級学習者の日本語学習目的は、キャリア関連科目を履修していても、「趣味」から「就職」まで幅が広い。特に、自身の日本語能力と日本企業で必要とされている日本語能力の乖離に気づいている学習者は、日本でキャリアを積むことにこだわらず、海外企業で仕事をすることや、日本国内であっても、外資系企業での就職を希望する場合がある。一方、日本語の習得状況によって決めるという者もあり、選択しきれない状況が観察できる。また、日本語による十分な情報収集が不可能であるため、就職活動とは何か、就職活動のスケジュールはど

のようなものかという基本的な情報すら不足している場合がある。さらに、キャリア意識の曖昧さとキャリアに関する情報不足、さらに、日本語能力の問題から、就職に向けた実質的な活動、すなわちインターンシップや各種セミナー、ワークショップなどに参加する割合が低いという傾向も見られる。

(2) 中級学習者

中級学習者の傾向としては、「キャリア意識の高さ」「キャリアに関する情報不足」「就職に向けた実質的活動への参加割合の低さ」などが挙げられる。初級学習者と比較して、国内企業または在外日本企業への就職を希望する中級学習者は多いが、日本語による大量の就職活動情報の中から自身に必要な情報を取捨選択する情報収集力が不足していること、かつ、現実の職場で仕事を進めることのできる日本語能力も不十分であることから、上級学習者や日本人学生が参加しているようなインターンシップやセミナーに十全に参加できていないという状況が見られる。つまり、国内企業または在外日本企業へ就職する意志はあるものの、日本語能力と情報収集の点で最も支援を必要としていると言える。

(3) 上級学習者

上級学習者の傾向としては、「キャリア意識の高さ」「キャリアに関する情報収集力の二極化」「就職に向けた実質的活動への参加割合の高さ」などが挙げられる。上級学習者は、初級、中級学習者と比較して、日本語による就職活動情報に自由にアクセスできるため、日本でキャリアを積もうと考えている者は、早期に情報を収集し、各種セミナーへの参加やインターンシップを行っている。また、サークル活動やアルバイトなどで知りえた日本人学生や目的を同じくする留学生から、就職活動に関する情報を得るなど、学内外の情報リソースを利用して、自律的に就職活動を行う者もいる。一方、日本語能力が高くてでも自律的に行動できない学習者は、情報収集が不十分で、活動に参加できていない。さらに、非正規学生であるがゆえに参加できない就職支援企画などもあることから、今後は、学習者の自律性を促すと同時に、制度的な改善が必要になると考えられる。

3-3. 学習者に期待されている支援

本節では、「大学にどのような支援を期待したいか」という質問に対する回答を整理する。学習者に期待されている支援を分類すると、表2に示したように、主に、①情報提供に関わる支援、②就職活動の準備に関わる支援、③就職活動のスキルに関わる支援、④日本語支援、⑤ネットワーク形成支援、⑥その他（特別支援など）の6種に区分できる。レベル差より個人差が大きい、全体的には、初級学習者が英語による支援や就職活動の基本的な情報提供を期待しているのに対して、中・上級学習者は企業情報や就職活動のためのスキル、インターンシップなど具体的な就職活動に関わる支援を期待していると言える。

しかし、ここで注目すべきなのは、本学では、これらの支援のうち「キャリアセミナー」「専門家によるキャリア相談」「アルバイト、インターンシップの紹介」「日本企業に関する情報提供」「エントリーシートの書き方」「面接の受け方」などの多くの項目については、正規学生を対象としてすでに日本語で実施されているということである。また、近年、留学生の増加に伴い、留学生を対象とした支援も充実しつつある。つまり、キャリア

センターなどの関係箇所にはアクセスすれば、それらの情報や体験が得られる環境にあると言える。

このような環境にありながら、日本語学習者から支援の要望が出ているという現状から、日本語学習者のキャリア支援のための課題は、主に、次の4点であると考えられる。

- (1) 日本語能力が不十分な日本語学習者に対する情報提供
- (2) 自身のキャリアについて自律的に考え行動できるようにするためのキャリア教育
- (3) 非正規学生に対する機会の拡充
- (4) キャリア関連情報の情報リソースとなりうる人的ネットワーク形成支援

まず、情報提供の観点から言えば、表2①に「キャリアに関する英語による情報提供」とあるように、英語による情報提供か、日本語学習者が容易に理解できる日本語レベルでの情報提供、あるいは、日本語による情報過多に考慮した選択的な情報提供が必要であると考えられる。一方、システムの観点から言えば、自身のキャリアについて自律的に考え行動できるようにするためのキャリア教育や、非正規学生も正規学生同様の支援を受けられるような環境整備、さらに、各種必要情報の情報リソースともなりうる人的ネットワークを形成するための支援も重要であると考えられる。

表2 日本語学習者が期待している支援

	支援の内容
①情報提供に関わる支援	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の就職活動システムやスケジュールに関する情報提供 ・日本企業に関する情報提供 ・企業セミナーの情報提供 ・キャリアに関する英語による情報提供 ・海外、または日本語を使用しないキャリアについての情報提供 ・必要情報（日本語・英語）へのアクセス方法に関する情報提供
②就職活動の準備に関わる支援	<ul style="list-style-type: none"> ・企業研究の方法 ・アルバイト、インターンシップ（短期・長期）の紹介 ・専門家によるキャリア相談 ・就職活動に関わるセミナー、ワークショップの開催
③就職活動のスキルに関わる支援	<ul style="list-style-type: none"> ・面接の受け方 ・グループディスカッションの方法 ・エントリーシートの書き方
④日本語支援	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動に必要な日本語学習 ・仕事（アルバイト、インターンシップ含む）に必要な日本語学習
⑤ネットワーク形成支援	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動仲間としての日本語母語話者 ・就職活動仲間としての留学生同士 ・就職活動に成功したOB/OG
⑥その他（特別支援など）	<ul style="list-style-type: none"> ・秋入学者の特別サポート ・学科、研究科別就職情報の提供

4. まとめ

本調査で明らかになったことは、次の4点である。(1) 初級学習者の中には、自身のキャリアに対する意識が薄く漠然としている学習者が多い、(2) 日本でのキャリアに対する意識が比較的明確な中級学習者でも、日本の就職活動についての理解不足から、具体的

な準備活動ができずに困惑している者がいる, (3) 言語的な問題の少ない中級学習者や上級学習者でも, 就職に向けた準備を計画的に行っている学習者が多くない, (4) 大学が発信するキャリア支援に関する情報を十分に入手, 理解している学習者が少ない, である。

一方, 学習者からは, 「①情報提供に関わる支援」「②就職活動の準備に関わる支援」「③就職活動のスキルに関わる支援」「④日本語支援」「⑤ネットワーク形成支援」「⑥その他」の6種の要望があることも確認された。そして, (1) 日本語能力が不十分な日本語学習者に対する情報提供, (2) 自身のキャリアについて自律的に考え行動できるようにするためのキャリア教育, (3) 非正規学生に対する機会の拡充, (4) キャリア関連情報の情報リソースとなりうる人的ネットワーク形成支援といった4点の課題も見いだされた。

キャリア支援に関わる問題は, 一般的に, キャリアセンターなどの専門機関が中心になって検討すべき課題であると考えられる。しかし, 日本語学習者の場合はキャリア支援における日本語支援の比重が重く, 日本語教育を看過しての支援は困難である。さらに, 学習者の社会性や人間形成の育成を目的とした教育的観点から言えば, 日本語教育においても, 学習者のキャリア意識の形成それ自体を支援していく必要があると言える。本調査の結果から, 就職活動に関する情報提供の方法や配慮, キャリアセンターなどの就職活動支援機関との連携, また, 留學生活の早期から就職に対する意識づけを行うことの必要性が示唆された。

付記 本調査は早稲田大学 2018 年度特定課題研究助成費の助成を受けている。

謝辞 本稿において取り上げた留學生のキャリア意識に関する調査にご協力いただきました先生方, および學生の皆様へ心より御礼申し上げます。

参考文献

- 内閣府 (2016) 「日本再興戦略改訂 2016—第 4 次産業革命に向けて—」 https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/2016_zentaihombun.pdf (2018 年 9 月 20 日最終アクセス)
- 日本學生支援機構 (2017) 「平成 29 年度外国人留學生在籍状況調査結果」 http://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2017/index.html (2018 年 9 月 20 日最終アクセス)

(とらまる ますみ, 早稲田大学日本語教育研究センター)
(なかやま ゆか, 早稲田大学日本語教育研究センター)
(さいとう ますみ, 山梨学院大学)